

歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会を発足

「歴史的都心地区」で「歩いて楽しいまち」を実現するため、地元の自治連合会長（中京区8学区，下京区4学区），商店街振興組合理事長，学識経験者，京都府警や国土交通省など63人の委員で構成する協議会（議長：北村隆一京都大学大学院教授）を設置し，5月31日，第1回会議を開催しました。

5月31日(水): 第1回協議会開催

北村隆一議長

榎本頼兼京都市長



「歩いて楽しいまちなか戦略」とは，市内有数の繁華街と京町家などの伝統的町並みが共存する「歴史的都心地区」（四条通・河原町通・御池通・烏丸通に囲まれた地区）において，自動車中心から徒歩と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」を実現することで，住民や買い物客，観光客の皆さんが安心安全に暮らせ，まちの魅力を楽しめるまちづくりを目指すものです。

◆ 内 容 ◆

1 都心地区の交通の現状

- ・ 四条通などの幹線道路における車道と歩道のアンバランス（狭い歩道に歩行者が集中）
- ・ 御幸町通や三条通など細街路で多い「通り抜け」の自動車による歩行者の安全性低下
- ・ 自転車マナー（放置自転車や走行マナー）の悪さ
- ・ 観光客の京都に対する感想として，「道路」や「交通」の印象が悪い

2 「歩いて楽しいまち」を実現するための交通環境改善メニュー例

- ・ 歩いて楽しい歩行空間の創出
- ・ 自動車交通の抑制
- ・ 公共交通の魅力向上
- ・ タクシーへの対応（乗降，客待ち）
- ・ 荷さばき車両の取扱い
- ・ 自転車マナー向上（放置，走行マナー）

3 幹事会の設置

個別のテーマについて議論を深めるため，幹事会を設置することとなり，幹事長には，塚口博司立命館大学教授が指名されました。

4 今後の進め方

- 18年秋 交通実態調査・アンケート調査の実施
- 19年秋 交通社会実験の実施
- 20年度以降 抜本的な交通環境の改善

第1回協議会での主な意見

都心地区の交通の現状について

- ・四条河原町交差点や河原町通の四つ辻など、タクシーベイ以外で駐停車するタクシーが増えている
- ・都心地区には放置自転車が非常に多い
- ・自転車の走行マナーの悪さも目立つ

戦略推進に当たっての考え方について

- ・歩いて楽しいまちの実現においては、「安心・安全」が大前提となる
- ・安心・安全・快適に加えて、まちの賑わいを生み出したい
- ・まちの魅力を作ることが第一である。京都らしさを持ったまちをどう作っていくのか
- ・まちづくりと交通政策を連携させて取り組んでいくことが重要である

意見とりまとめ

- ・問題は複雑であるからこそ、皆で意見・知恵を出し合い、「歩いて楽しいまち」の実現に向けて考えていきたい

6月26日(月):第1回幹事会開催

協議会で設置することとなった「幹事会」を6月26日(月)に開催しました。



塚口博司幹事長

◆ 内 容 ◆

- 1 目指すべき都心地区の姿
 - ・京都らしさを持ったまちづくり
 - ・交通環境の改善（自動車から徒歩・公共交通への転換）
- 2 「歩いて楽しいまち」実現に当たっての検討テーマ
 - ・関係者の合意形成，地元主導によるまちづくり気運の醸成
 - ・都心地区に住む人，働く人，訪れる人の安心・安全・快適性の確保
 - ・都心地区へ訪れやすい交通環境の整備
 - ・都心地区内の移動快適性の確保とまちの魅力提供
- 3 交通社会実験内容の骨子（案）
 - ・交通社会実験の目的
 - ・実施時期

第1回幹事会での主な意見

交通環境改善に向けた考え方について

- ・対策実施においては、都心地区へ流入する自動車の総量抑制が前提となるだろう
- ・一方で物流交通への対策や自転車対策（放置自転車，走行マナー），通過交通への対応，地区内駐車場との調整を検討する必要がある
- ・対策を講じた際の周辺地区への影響も事前に検討すべきである
- ・歴史ある，限られた空間において，折り合いの精神を持った上手な活用方策を考えていきたい

とりまとめ

- ・平成19年9～10月頃に交通社会実験を実施する
- ・幹線道路では四条通を対象に，細街路では三条通を例として具体策を検討する